

初めての方も大歓迎！ 参加ご案内は米沢有為会ホームページの文化大学欄をご覧ください

## 米沢有為会#文化大学 第40回 ご案内（令和7年度第2回）

## オンライン講演会

令和8年 3月15日（日）  
15～17時 開催

◇講師◇ 医師・米沢有為会仙台支部長

鈴木 修治（すずき・しゅうじ）さん



1948 年米沢市生まれ。米沢興譲館高校卒業。東北大学医学部医学科卒業。

山形県立中央病院初期研修。東北大学医学部大学院内科学専攻終了。医学博士。東北大学抗酸菌病研究所内科助手。アメリカ国立衛生研究所(NIH: National Institute of Health)免疫学・分子生物学部門客員研究員。仙台市若林区、宮城野区、泉区、各区保健福祉センター所長(兼仙台市若林区、宮城野区、泉区、各区保健所長兼各区福祉事務所長)。太白区副区長(兼太白区保健福祉センター所長兼太白区保健所長兼太白区福祉事務所長)。公益財団法人宮城県結核予防会健康相談所興生館所長。宮城県結核予防会理事。宮城県結核予防会健康相談所興生館名誉所長

## ◇演題◇ 肺がん検診の概要と現況

——肺がん検診に至るまでの道程——

＜講演要旨＞ 大学卒業後、呼吸器疾患の診療と研究のため東北大学抗酸菌病研究所内科学部門の大学院生となり、肺がんの化学療法中心に学ぶことになりました。肺がんの化学療法は主に手術が不可能な肺がん症例に対する治療法で、それ単独では完治が難しく、他の治療法との併用が一般的な治療法でした。抗ウイルス作用を持つインターフェロンや白金製剤など新しい薬剤の抗がん効果を調べ、副作用の少ない新たな多剤併用化学療法の開発に努めました。途中、米国へ留学する機会があり、ワシントン DC 近郊ベセスダにあるアメリカ国立衛生研究所(NIH)において、3 年間当時隆盛であった分子生物学の研究に従事でき、その後の生き方にも影響する有意義な時期でした。帰国後も肺がんの化学療法において新しい抗がん剤の開発を続けましたが、化学療法は延命効果を図ることが抗がん効果の中心でした。

その後は仙台市保健所に入ることになり、宮城野保健所では介護保険制度が始まる時点で、鶴ヶ谷プロジェクトとして東北大医学部公衆衛生学の辻教授と寝たきり予防健診という事業を行い、介護予防の先駆的モデル事業として全国的に知られました。また太白保健所時代に東日本大震災が起こり、避難所や仮設住宅が設けられ多数の避難者の支援を2 年ほど行いました。他に感染症対策として新型インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等への対応を経験しました。

保健所に 18 年勤め定年後(公財)宮城県結核予防会(予防会)に移り肺がん検診を中心とした仕事に 10 年余り従事しましたので、今回は肺がん検診の概要と検診の現況についてお話したいと思います。資料は予防会が宮城県肺がん対策協議会等の協力のもとに得られた宮城県内の胸部検診受診者からのデータを提示します。最近の年間受診者数は約 20～25 万件、発見される肺がん症例は年間約 200 件になっています。統計のある昭和 57 年から令和 5 年までの 42 年間に総計 6,458 件の肺がん例を発見してきました。